論 文 審 査 の 要 旨	
筆頭著者（学位申請者）氏名	中島　育太郎
主論文の題目 および 掲載誌･審査委員名	題　目　Development of Heart Failure from Transient Atrial Fibrillation Attacks in Responders to Cardiac Resynchronization Therapy.（心臓再同期療法患者における一過性心房細動自身による心不全発症に関する研究）
	掲載誌　J Am Coll Cardiol EP 2018; 4: 1227-34
	主査　松本　直樹 副査　信岡　祐彦 副査　宮入　　剛

［論文の要旨・価値］　左心室同期障害を有する心不全（HF）患者の治療法として、洞調律(SR)患者に対する左心室同期療法（CRT）の有効性は確立されているが、心房細動（AF）患者での恩恵は限定的と知られ、さらに一過性 AF 患者に関しては情報が少ない。本研究は CRT に対する一過性 AF の影響とその予後を検討した。2009 年から 2014 年の期間に国際基準によって CRT 治療を選択された連続 269 例のうち、検証基準に合致しない 26 例を除外した 243 例を対象として検討した（観察期間中央値 942 日）。約半数（120 例）が SR 51 例（21%）が永続性 AF で、一過性 AF は 72 例（30%）であった。88 例（33%）で 191 回の急性 HF を発症し 45 例・120 回で AF を呈していた。そのうち 22 例・40 回は AF 誘発性 HF で、全 HF の 21%を占め、かつ 59%は CRT 有効性の高い患者群での発症だった。さらに HF 発症時の AF への治療が追加されたが 32%で AF 合併 HF を繰り返した。また治療に必要な心室ペーシング率（BIVP%）は AF 誘発性 HF では有意に低下した。約 4 年間累積の全死亡、心不全発症、除細動器作動は洞調律群より一過性 AF 群で有意に多かったが、BIVP%が 90%未満で有意に予後が悪化するものの、90%以上であれば洞調律の予後と同等だった。本研究は CRT 治療中の一過性 AF 患者で、BIVP%低下が CRT の効果を減弱させ、予後を悪化させる要因であることを明らかにした結果、今後の CRT 治療の方針を明確にした点で、実診療・学術の両面からみて、極めて価値が高いものである。

［審査概要］　主査、副査 2 名、陪席 1 名の参加のもと、20 分間の PC を用いた解説と約 1 時間の討議が行われた。解説は非専門家にも判りやすく、また質問には過去の研究も引用した質の高い回答が返される、水準の高い討論が行われた。特に画一的な正答の得られにくい難治症例に対する今後の本研究の活かし方や、今後の研究の発展方向に対する回答や見解は、申請者が実際に研究と診療の両方に真摯に向き合っていることを示し、その真面目な人柄、態度、人格、研究能力・発表能力いずれも、学位授与に値する。

最 終 試 験 結 果 の 要 旨

［研究能力・専門的学識・外国語（英語）試験等の評価］　１）研究能力：心不全のみならず不整脈、心機能等について広く学習し、自らデータ処理を行い、臨床研究の経験を積んだ結果から、十分な研究能力を有すると判断した。２）専門的学識：発表と質疑応答を通じ、広く循環器領域の基礎、治療法、周辺知識を含む専門知識を有する事を確認した。３）英語試験：当該論文の引用文献を審査の場で指定し、その抄録を和訳させた結果、優秀な語学力を有すると判断した。